



旧川越織物市場

文化創造

インキュベーション

施設

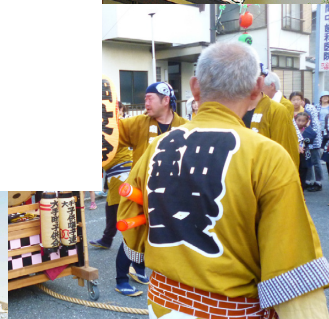
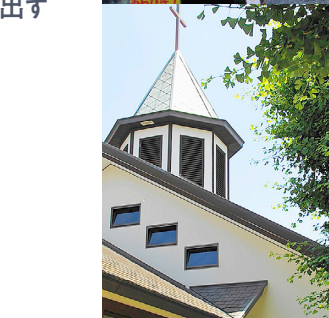
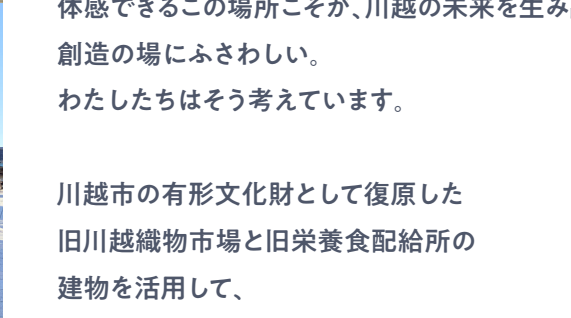
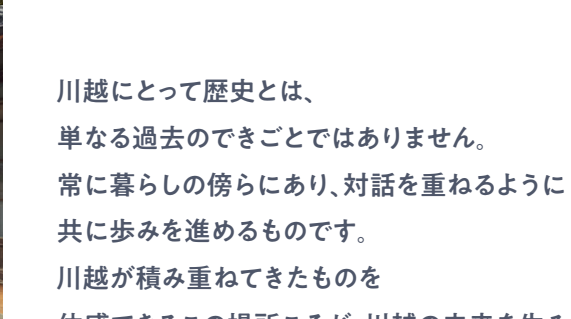
コンセプトブック



# 歴史の 息づかいを感じる この場所でこそ、 創造できる 未来がある

川越にとって歴史とは、  
単なる過去のできごとではありません。  
常に暮らしの傍らにあり、対話を重ねるようにして、  
共に歩みを進めるものです。  
川越が積み重ねてきたものを  
体感できるこの場所こそが、川越の未来を生み出す  
創造の場にふさわしい。  
わたしたちはそう考えています。

川越市の有形文化財として復原した  
旧川越織物市場と旧栄養食配給所の  
建物を活用して、  
未来の価値を創造するクリエイターが  
地域とともに活動する拠点が動きはじめます。

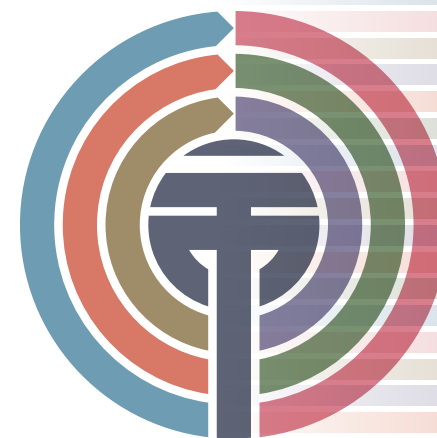


# 旧川越織物市場から 文化創造インキュベーション施設へ

屋根瓦に印された  
旧川越織物市場  
の紋章

川越に残された貴重な近代遺産である旧川越織物市場と旧栄養食配給所。  
川越市ではこれを復元再生のうえ、  
「文化創造インキュベーション施設」として活用することとしました。  
川越には、先人の培ってきた様々な地域の価値があります。  
その価値を理解し、活かしながら、新たな視点や発想を  
融合させることができる人材を集めて育成し、  
地域課題の解決や新たな地域価値の創造に向けた活動を行う施設を設置、運営します。

このコンセプトブックでは、  
その事業理念や目指すもの、運営の考え方をご紹介します。



## コンセプトブックの内容

1\_History  
川越織物市場  
復元プロジェクトの  
これまで ..... 04

2\_Vision  
事業の目的と  
ビジョン  
..... 08

3\_Mission  
事業が社会に  
提供する価値  
..... 10

4\_Contents  
施設の空間利用  
運営プログラム  
..... 12

5\_Operation  
事業の  
実施体制  
..... 16

6\_Progress  
展望と期待される  
まちへの効果  
..... 18

## 1\_History

# 川越織物市場 復原プロジェクトの これまで

## 川越織物市場の 誕生と変遷

川越織物市場は明治43年(1910)、川越商業会議所(現川越商工会議所)によって開設されました。周辺地域に織物産地を擁し、その集散地として長い歴史をもつ川越でしたが、本格的な織物市場がなく、織物製品が川越を経由せずに流通するようになったことから、これに危機感を募らせた川越経済界が総意により行った経済振興プロジェクトでした。

しかし、川越周辺の織物業は、動力織機が中心となった時代について行くことができず、不況の影響も受けて織物市場は衰退し、大正末から昭和の初めには閉鎖に至ったといわれています。その後は長く一般住宅として利用されました。



大正6年の年初、初市(はついち)の時の織物市場の様子。東棟と西棟をつなぐ二本の渡り屋根が見える。



奥に西棟の長い屋根を望む織物市場。波板の屋根が葺かれた建物の部分は、織物市場の閉鎖後、栄養食配給所の作業場が作られた。



川越織物市場案内

### 織物産業再生の期待が 寄せられた川越織物市場

(上) 明治時代の川越織物市場の様子がわかる写真。毎月6回、5と10のつく日には市が立ち、市内の織物業者が荷を持ち込んで対面での取引が行われていた。(下) 当時の活気ある様子を再現した川越市立博物館の模型。



### 栄養食配給所、そして住宅 として生き続けた建物

全国的に工場労働者の栄養改善を目的に開設された栄養食配給所が、昭和9年、織物市場跡にも開設された。その後、住宅に転用されたが、実際に使用されたカマドなどは当時のまま残され、希少性の高い近代化遺産として評価されている。



## 市民の声をきっかけに 保存再生へ

平成13年、織物市場の跡地にマンションを建設する計画が公表されます。織物市場が明治43年の建設当時の姿をほぼそのまま残す貴重な文化資源であるとして、市民有志の方がこれに反対し、保存を求める活動が行われました。

これを受け、川越市が建物の調査を行った結果、文化的・社会的に貴重な財産として保存・活用すべき建物であると判断し、市が保存再生する方針を決定しました。

市の所有となった後も、地域の方による管理保全の支援や見学会の開催、中庭を利用した様々なイベントの取組みなど、積極的な協力が行われ、多くの方に親しまれてきました。



平成24年から毎年秋に開催されてきた「アートクラフト手作り市」。川越市内外から多数の作家が参加。



アースデイのイベントで、伝統的な木組みによるジャングルジムを自ら組み立てて遊ぶ子どもたち。

## 解体調査を経た 忠実な復原事業の実施

旧川越織物市場と旧栄養食配給所の復原は、建物のほぼ全ての部材を解体し、再度組み立てる「全解体修理」という手法で行われています。解体された部材は一点一点損傷状況を確認し、可能な限り元の材料を活かすべく、必要な修復や補強を丁寧に施して使用しています。

解体しながら調査を行うことにより、江戸時代以前の鉄砲鍛冶に由来する遺構が発見されたり、織物市場建設当時から現在に至るまでの建物の変遷が新たに判明したりしました。その結果、創建当時の姿への復原がより可能となっています。



加工場で仮組みが行われる大屋根。組み立てながら歪みが無いか確認し、部材を修復する。



損傷している箇所は、必要な部分だけ新しい木材で継ぎ足し補強される。新旧の材が一緒になって新しい建物を支えていく。



### 市民や民間団体の協力による 建物の維持・活用

保存・再生の方針が決まって以降、アートやクラフト、食、セレクトショップなどをテーマとしたマーケットや、見学と夕涼みをかねた夕涼み会、地球環境について考える世界的なイベントであるアースデイなど様々なイベントが行われ、民間団体による活動が施設の認知度を高めたり、維持管理を支援することに貢献してきている。



### 歴史と対話するように 進められた復原プロセス

解体調査を経た復原事業は長い時間と大変な手間を要するが、積み重ねられてきた歴史と対話をしながら建物の再生を考えていくようなプロセスでもある。時には意外な発見もあり、東棟の土壁の中からは材料として使用された建設当時の新聞紙が見つかり、建設年代を裏付ける貴重な資料となった。



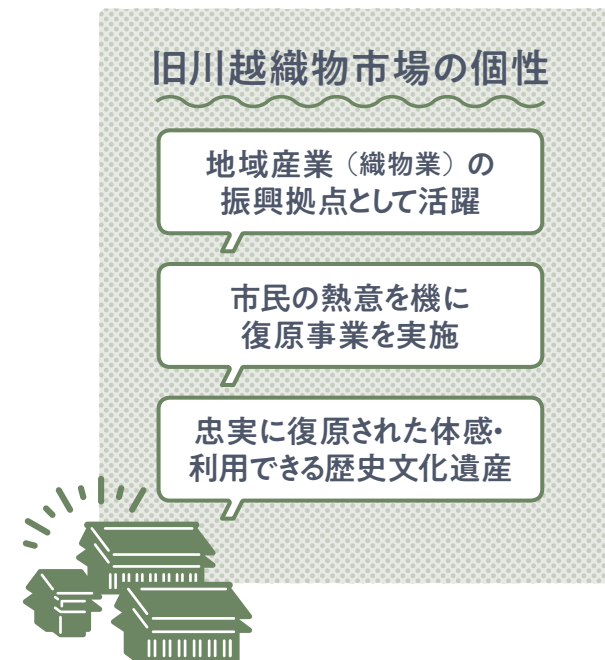
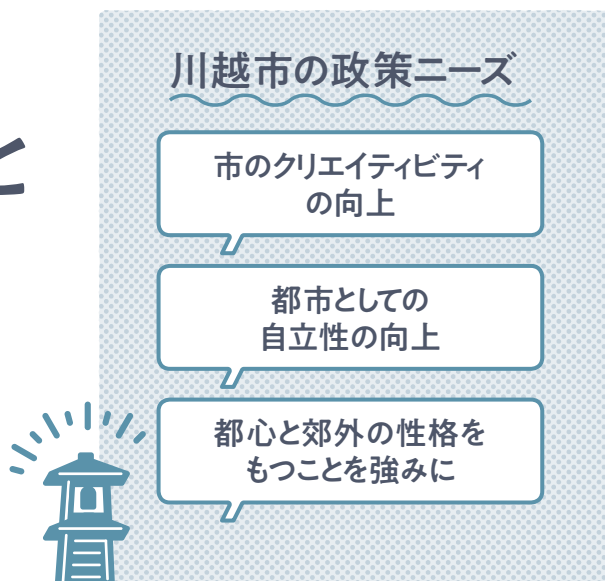
## 2\_Vision

# 事業の目的とビジョン

### 川越市の政策ニーズと、旧川越織物市場にしかできない役割

川越市は、首都圏を代表する観光地であると同時に、東京近郊の居住地としての性格をあわせもっています。今後、人口の減少も予測される中で持続可能な都市であるためには、多様化する若者の就業ニーズに応じて未来を支える創造的な産業を發展させ、歴史・文化などの地域特性を活かしながら豊かに暮らせる環境づくりを進めることが求められます。

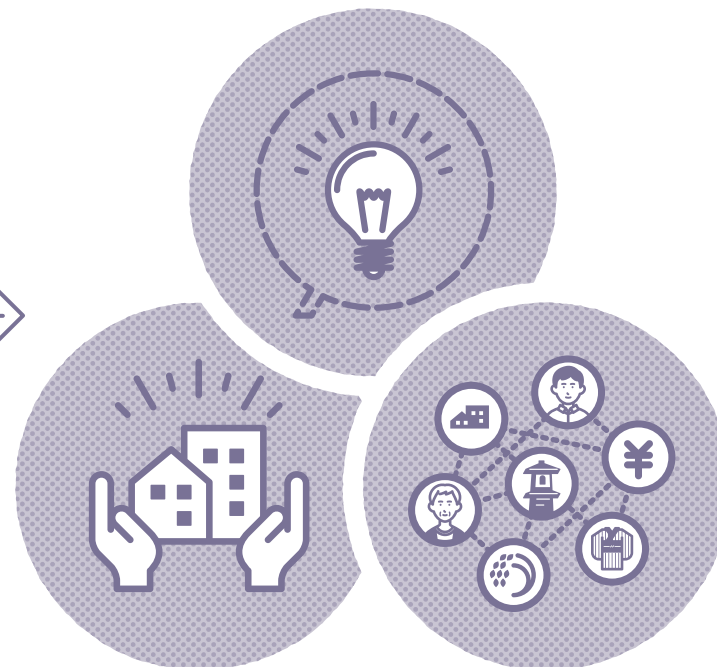
本事業は、織物市場として誕生し、市民から親しまれることで復原された、「使うことができる歴史文化遺産」というこの施設ならではの個性を活かし、川越の創造性を育む源泉として、川越の人・資源・ビジネスをつなぐ役割を果たすことにより、地域の特性を活かした暮らしの豊かさの創造を目指すものです。



文化創造  
インキュベーション  
施設の事業目的

川越の創造性を  
育む源泉となる

旧川越織物市場での活動や地域との交流が川越の未来の豊かさをつくるコンテンツを生み出すことにより、川越市全体の創造性を育む源泉としての役割を果たす。



エリアを「らしく」  
豊かにする

旧川越織物市場があることによって、このエリアで生活する居住者や事業者が、立門前界限ならではの暮らしの良さを感じるような存在となる。

人、資源、ビジネスを  
つなぐプラットフォームに

川越の人材と地域の資源、ビジネスとがこれまでにない形で組み合わせられて、新たな価値を創造していくプラットフォームになる。

## 3\_Mission

# 事業が社会に提供する価値

### 若手クリエイターの 創造的な活動を通じて 地域に貢献

本事業では、施設に入居する若手のクリエイターが、創業支援や新規ビジネス創出に向けた支援を受けながら活動します。その活動を通じて、川越に存在する人や資源、技術、企業が新たな視点から再評価され、活かされていきます。それは同時に、それぞれの要素を従来なかった形でつなぐことになり、そこから新たな地域の価値が生まれ、地域課題の解決に貢献します。

このように本事業が社会に提供する「活かす」「発見する」「つなげる」「生み出す」の4つの機能は、さらに地域社会の活動そのものを活性化させ、本事業が社会に提供する価値となってその成果をもたらしていくことが期待されます。

〔クリエイター〕本事業でいうクリエイターとは、新たな視点や発想から地域の資源を発掘・再評価し、地域価値の向上や地域課題の解決につながる提案、企画、ビジネスの創出を行う人や企業のことです。

本事業が提供する  
4つの機能



人材



自然



文化・技術



町並み

文化創造  
インキュベーション  
施設



地域価値の  
広がり



生み出す

社会課題の解決や地域経済の活性化に資する新たなもの、サービス、技術、仕組みなどを創造する。



発見する

これまで注目されてこなかった資源などに光をあて、新たに価値創造の可能性を見出す。



活かす

既存の商品・サービスや店舗などを新たな視点や発想から紹介したり、リブランディングしたりする。



つなげる

人や企業、資源、ノウハウなどをこれまでになかった発想からつないだり、マッチングしたりする。

## 4\_Contents

# 施設の 空間利用

## 柔軟な視点で 文化財の創造的な 利用を発想する

本施設には、旧川越織物市場の東棟と西棟、旧栄養食配給所といった文化財建造物と新たに建築された交流機能施設があります。文化財として保存する上で必要な利用の制約を守りながらも、柔軟な視点で利用方法を発想していくことにより、施設全体の創造性を高めていきます。

クリエイターの活動スペースとしては、仕事に集中しやすい環境を確保しつつ、川越の人や企業、地域との多様な協働、交流を図りやすい施設利用を行います。文化財としては、単に過去の歴史を展示するだけでなく、新しい文化を創造する生きた情報発信の場として活用します。そして、地域にとっては、この施設が日常の中に根つき、この場所らしい暮らしの豊かさを感じられるような空間としていきます。

## 発信する ショーケース



## 川越の歴史、今、未来を発信する空間

文化財である旧川越織物市場、旧栄養食配給所とその復原に関する展示を行うほか、セミナーや小規模なシンポジウムなど、展示、発表、プレゼンテーションの場として川越の現在と未来に関する情報も発信する。

## 入居者が活動する クリエイティブスタジオ



## 入居するクリエイターの ワークスペース

クリエイターが個人的な作業に集中するブース、協働作業を行うプロジェクトルーム、ライブラリー、屋外用作業場、交流のためのサロンスペースなどから構成される。



## 創造的な たまり場と なるホワイエ

入居するクリエイターやプロジェクト関係者、地域関係者、来訪者などが交流・回らんする空間  
飲食を提供するカフェ、ラウンジ、ギャラリーなどにより構成され、施設・クリエイターの活動や地域情報を紹介・発信するスペースとしても利用される。



## コミュニケーション オフィス

効果的な施設運営に向けて、運営者、入居者、地域関係者などのコミュニケーションの中心となるスペース  
来訪者の対応やミーティングを行う会議室、施設の管理・運営のための事務室、備品類の倉庫、入居者・来訪者用のトイレなどを備える。



## 豊かな暮らしを 育むパブリック スペース

## 暮らしを豊かにする 地域の庭のような公共空間

深い庇が建物と中庭をつなぐ特徴を活かし、地域とクリエイターをつなぐ接点として、クリエイターによる屋外での活動・展示等の場として活用するほか、地域のコミュニティを育む縁側のような場所として、様々なイベントの利用にも開放する。



## 4\_Contents

# 運営 プログラム

### 社会に価値を 提供するための 4つのプログラムを提供

本施設では社会に新たな価値を提供していくため、クリエイターを育て、その活動を支えていくための4つのプログラムを提供します。

リサーチ支援では、川越を主なフィールドとして、新しい視点で社会課題をとらえ、その解決に活用できる地域資源を発掘・再評価する調査・分析力を養います。

ネットワーク支援では、クリエイターが地域の人や企業と協働していくためのきっかけと交流機会を提供します。

事業化支援では、社会課題を解決するアイデアや企画を自立した事業やビジネスにつなげるための専門的なサポートを行います。

さらに、本施設が地域に定着し、立門前界隈の暮らしを豊かにすることに寄与できるよう、地域連携のための積極的な取り組みも行います。

## 地域連携

本施設が立門前界隈の豊饒化に寄与することを目指した地域との連携

- 中庭等の活用
- 公共空間等利活用
- 地域活動への参加

## リサーチ支援

クリエイターが新しい視点で行う社会課題の抽出と地域の資源、技術、空間等の発掘、分析、再評価の支援

- ゼミ・レクチャー
- フィールドワーク
- 課題への取り組み

## ネットワーク支援

クリエイターと地域の人や企業とがつながりを持つきっかけづくり

- 交流会・懇親会
- 発表会
- 情報提供・紹介

## 事業化支援

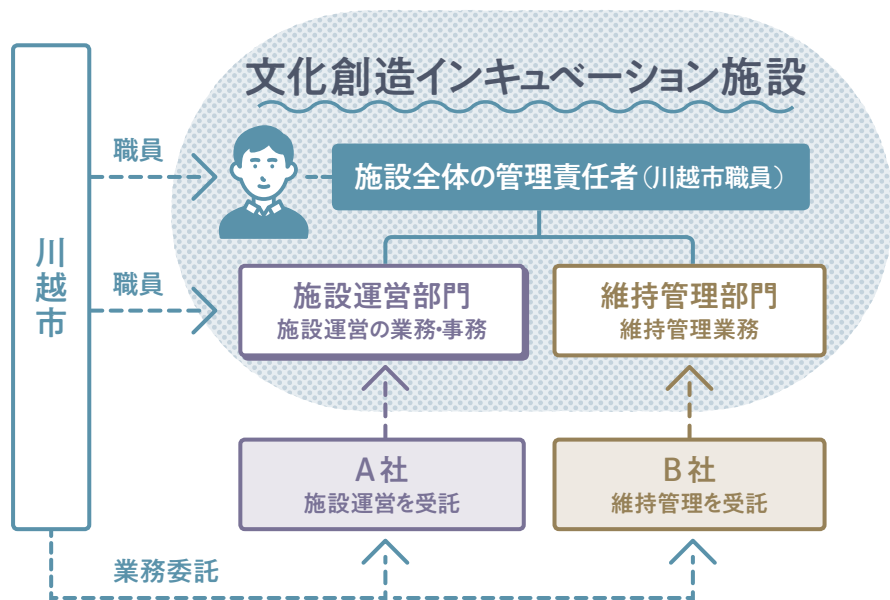
クリエイターが発想するアイデア、企画を事業やビジネスにつなげる支援

- レビュー・研修
- 意見交換
- 相談・助言



# 5\_Operation

## 事業の実施体制

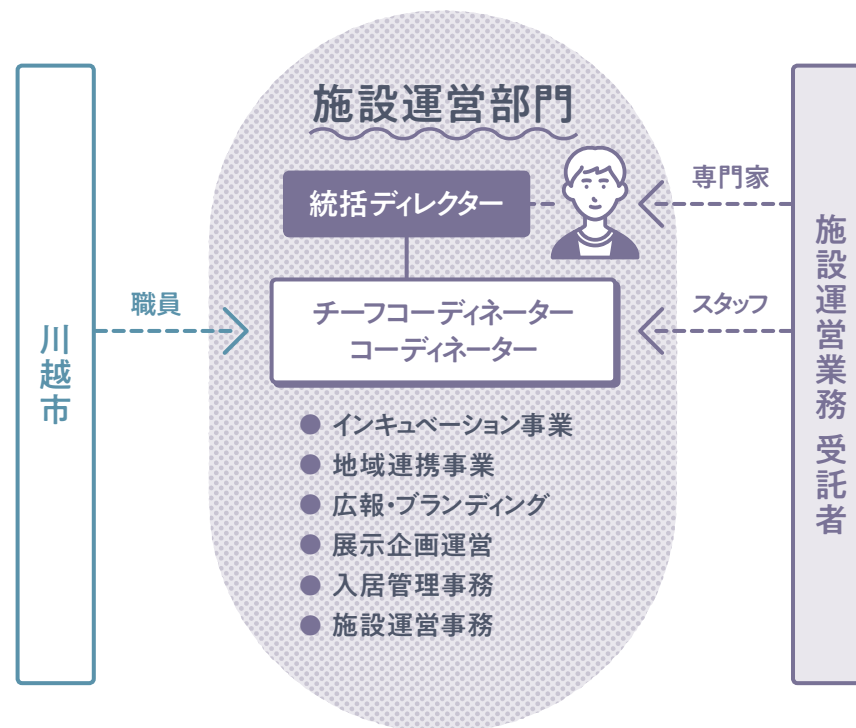


### 公と民の特長を活かした 新たな施設運営のかたち

文化創造インキュベーション施設は、公と民の特長を活かした新たな公民連携によって運営を行います。川越市の職員が施設全体の管理者となることで、市が設置する施設として責任ある運営を行い、施設運営にあたっての川越市各部局との連携や調整を円滑に進めます。施設運営業務と維持管理業務のそれぞれについて、民間への業務委託を行い、

そのノウハウを施設運営に活かします。

本施設の運営やマネジメントには、クリエイティブな人材を育成するための高度な専門的ノウハウと、これを川越市の持続的な発展に活かすための地域連携を必要とします。このため、市の職員と民間企業等の人材が協力しながら業務を進めることにより、双方の特長を活かした施設運営を実現します。



### 統括ディレクターの起用による クリエイティブな成果の実現

※施設や役職の名称などは全て仮のものであり、今後の検討により変わることがあります。

インキュベーション事業や地域連携事業など、創造的な施設運営の要となるのが統括ディレクターの存在です。施設全体管理者と連携して施設運営部門を指揮し、川越市職員と民間企業等のスタッフからなるチームの運営を行います。

施設の目的に照らして適切な目標を設定し、必要な事業を構想し実践していく「構想・

企画力」、創造的な事業を行うために効果的なチーム運営を行う「チームマネジメント力」、クリエイターと川越の人や企業をつなぎ、地域連携によるエリア価値の創造を実現する「コミュニケーション力」を備えた人材を起用することにより、施設の創造的な成果を生み出します。

## 6\_Progress

# 展望と 期待される まちへの効果

事業が核となって  
ヒト、モノ、コトが  
つながり、  
地域の価値が成長する

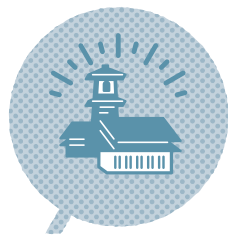
川越は、近郊のヒト、モノ、コトが江戸・東京、さらには海外へとつながる集散地として栄えてきました。その文化は今も川越のDNAとして受け継がれ、移り住む人、事業を始める人、訪れる観光客など、その地域価値に引き寄せられて、様々なヒト、モノ、コトが集まります。

集まったヒト、モノ、コトが相互につながり、関わりをもつことで、さらに地域の価値が厚みを増していく。文化創造インキュベーション施設は、単にクリエイターという個人を育てることにとどまらず、これを通じて地域価値が厚く、豊かなものとなり、その結果として川越の持続可能性や施設が立地するエリアの魅力が高まることを目指しています。



### 地域課題の 解決力が高まる

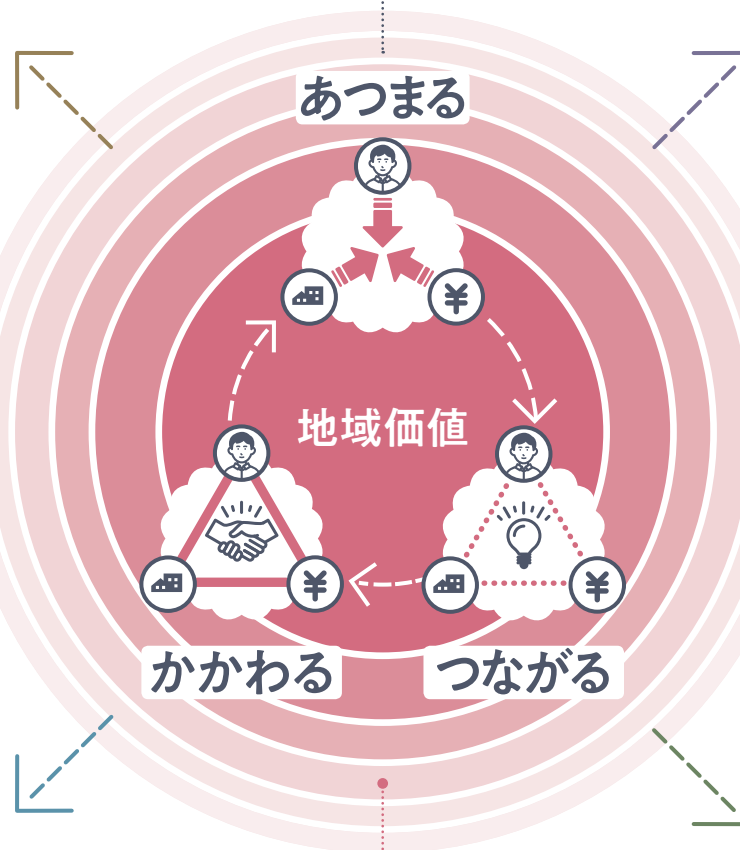
入居するクリエイターの活動や川越の人が本施設の事業に関わることを通じて、地域の課題を創造的に解決する意識が醸成され、文化として根づきます。



### 川越のブランド イメージが向上

川越固有の進取の気質や本物志向に、創造性や洗練されたデザイン性が加わることにより、「小江戸」というイメージにとどまらない、新たな側面でのブランドイメージ形成が期待されます。

ヒト、モノ、コトが  
“あつまる・つながる・かかわる”  
のサイクル



### 地域の経済活動 が活性化

地域の資源を活かした新たな価値創造の取組みにより、観光による消費のみならず多様な分野の事業が生まれ、都市としての持続性向上に資する経済活動の活性化が期待されます。



### 立門前界隈の 魅力が向上

エリアの特色を活かした地域連携の取組みを積極的に進めることにより、施設の有存在やクリエイターの活動が立門前界隈の暮らしを豊かにすることにつながり、エリアの魅力が高まります。

### 地域価値の 広がり

文化創造インキュベーション施設が核となって、そこに集まるものが互いにつながり、関わりをもつことで新たな価値を生み出します。

# Guide Map 周辺マップ



## 蓮馨寺 [れんけいじ]



室町時代に創建された浄土宗の由緒ある寺院。貧しい子どもたちを守り育てたことで知られる香龍上人を祀り、これにちなんで毎月8日は境内で「吞龍デー」と呼ばれる縁日が行われる。

## 立門前通り [たつもんぜんどおり]



蓮馨寺の門前町として発展し、かつては芝居小屋などもある市内で最も賑やかな参道とも言われた商店街。街路の美装化事業が行われており、文化創造インキュベーション施設の開設とあわせて整備が完了する予定。

## 川越熊野神社 [かわごえくまのじんじや]



室町時代に蓮馨寺の勧請により紀州熊野から分祀された開運・縁結び・厄除けの神社。境内は周辺の道路につながる開放的な空間で、銭洗弁財天などもあり、参詣する人が多い。

## 大正浪漫夢通り [たいしょうまんゆめどおり]



かつて銀座商店街と呼ばれた賑やかな通りで、その後衰退が見られた時期もあったが、アーケードの撤去とあわせて「大正浪漫」をテーマとする町並みの整備と道路の美装化に取組み、観光客も訪れる心地良い街路をつくっている。

# Information インフォメーション

## 旧川越織物市場 文化創造 インキュベーション施設

[川越市指定文化財]

所在地	川越市松江町2丁目11番地10ほか
敷地面積	1,475.6㎡
延べ面積	旧川越織物市場東棟 ..... 394.1㎡
(主な建物)	旧川越織物市場西棟 ..... 390.0㎡
	旧栄養食配給所 ..... 171.3㎡
	交流機能施設 ..... 33.8㎡



## 旧川越織物市場整備事業ホームページ(川越市)

旧川越織物市場整備事業の概要や進捗、関連する事業の実施状況や川越市の計画の紹介、旧川越織物市場の解体調査や旧栄養食配給所の修復調査の内容の紹介など

[https://www.city.kawagoe.saitama.jp/smph/shisei/toshi\\_machizukuri/machizukuri/orimonoichiba.html](https://www.city.kawagoe.saitama.jp/smph/shisei/toshi_machizukuri/machizukuri/orimonoichiba.html)



## 問合せ先

### 川越市 都市計画部 都市景観課 歴史都市整備担当

〒350-8601 川越市元町1丁目3番地1  
Tel:049-224-5961(直通)  
Fax:049-225-9800

旧川越織物市場  
文化創造インキュベーション施設  
コンセプトブック

発行 川越市  
写真提供 川越市立博物館  
企画・編集 株式会社ユニークエディンソズ  
デザイン 藪内新太